R3 校内研究　研究構想図

社会的な背景

・社会の急速なグローバル化
・様々な文化や価値観を背景とする人々との相互理解・尊重の必要性
・科学技術の発展、社会・経済の変化
・いじめ問題への対応

今後の社会において求められる力

●何が重要であるかを主体的に判断できる力
●多様な人々と協働することができる力
●新たな問題の発見・解決につなげることができる力

学校教育目標

◎考える子
○助け合う子
○元気な子

六小児童の強み

○明るく素直
○誰とでも仲良くできる。
○生活規律が身に付いている。
○決められたことを実行できる。

六小児童の課題

●課題意識をもつ。
●自分から学び、すすんで動く。
●自分たちの力で解決する、よりよくしていこうとする。

研究主題

自己を見つめ直し、よりよく生きようとする児童の育成
～一人一人の考えを深める道徳の授業づくりをめざして～

研究仮説

道徳の授業において、次のような手立てを講じていくことで、自分の考えをもち、友達との交流を通して物事を多面的・多角的にとらえ、自分自身を素直に振り返るとともに、よりよい生き方について考えを深めることができる児童が育つであろう。

手立て

- 発問の工夫
- 板書の工夫
- 交流の工夫
- 授業展開の工夫
- その他

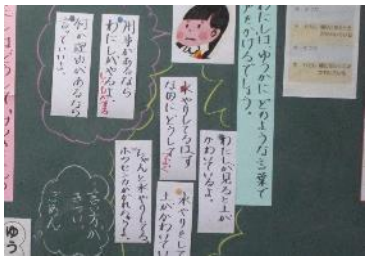
研究における目指す児童像

考え	低学年	中学年	高学年
もつ	自分の考えをもち、	自分の考えを	自分の考えを
交流する	友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりして、	すすんで表現したり、友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたりしていろいろな考えに触れ、	すすんで表現したり、友達の考えを自分の考えと比べながら聞いたりしていろいろな考えに触れ、
深める	自己を素直にふり返り、よりよい生き方について考える児童	自己を素直にふり返り、よりよい生き方について考える児童	自己を素直にふり返り、いろいろな状況や考え方を理解しながら、よりよい生き方について考える児童

～授業実践～

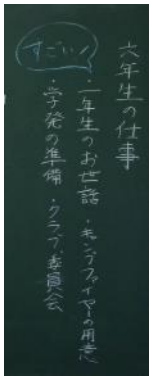
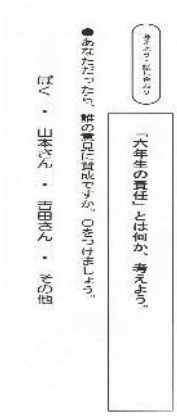
<table>
<tr><td rowspan="3">Ⅰ</td><td rowspan="2">日時</td><td rowspan="2">6 月 23 日（水）</td><td>主題名</td><td>「したいことをするときは」</td></tr>
<tr><td>内容項目</td><td>A　節度、節制</td></tr>
<tr><td>学級</td><td>1 年 2 組</td><td>教材名</td><td>「かぼちゃのつる」</td></tr>
<tr><td>研究主題に迫るための手立て</td><td colspan="2">◇授業展開の工夫物語に入りやすいようにペープサートに範読する。

 </td><td colspan="2">◇交流の工夫隣の児童と二人組→他の児童→全体の前で発表する。その際に、聞き手の児童はリアクションシールを使い、相手の意見に反応を返す。
 </td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">Ⅱ</td><td rowspan="2">日時</td><td rowspan="2">11 月 5 日（水）</td><td>主題名</td><td>「気持ちをつたえ合って」</td></tr>
<tr><td>内容項目</td><td>B 相互理解、寛容</td></tr>
<tr><td>学級</td><td>3 年 2 組</td><td>教材名</td><td>「水やり係」</td></tr>
<tr><td>研究主題に迫るための手立て</td><td colspan="2">◇板書の工夫児童から出た意見を短冊に記入し、黒板上で動かすことで考えのまとまりが分かるようにする。
  </td><td colspan="2">◇発問の工夫発問を整理することで、児童に考えさせたいことを明確にした発問を行う。
〔発問シート〕
T：じゃあ、「わたし」はこのあとどうすると思いますか。
C：A　言えない。→T：言えないままでいい?
自分の気持ちは伝わらないよ。
B　伝える
・ちゃんと水やりやってよ。
・なんで水やりしてないの?
→T：相手がどんな人でも同じように言える?
→T：なんで?
→T：じゃあどんな相手でも相手がいなや気持ちにならないように言えるといいね。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">Ⅲ</td><td rowspan="2">日時</td><td rowspan="2">11 月 5 日（水）</td><td>主題名</td><td>「分かり合うために」</td></tr>
<tr><td>内容項目</td><td>B 相互理解、寛容</td></tr>
<tr><td>学級</td><td>5 年 1 組</td><td>教材名</td><td>「ブランコ乗りとピエロ」</td></tr>
<tr><td>研究主題に迫るための手立て</td><td colspan="2">◇授業展開の工夫導入と終末にアンケート結果の一部を紹介し、児童が自分事としてねらいを捉えるようにする。
〔事前アンケート内容〕
①これまでに、その時はどうしても許せないと思った出来事はありましたか。
②それはなぜですか。
③その後、どのような気持ちになりましたか。</td><td colspan="2">◇発問の工夫ピエロの視点で発問をすることで、サムに対する心情をの変化を考える。
◇交流の工夫二人組→グループ→全体の順に話し合う。
 </td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">Ⅳ</td><td>日時</td><td>12 月 1 日（水）</td><td>主題名</td><td>「きまりをまもって　気持ちよく」</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>内容項目</td><td>C 規則の尊重</td></tr>
<tr><td>学級</td><td>２年２組</td><td>教材名</td><td>「黄色いベンチ」</td></tr>
<tr><td>研究主題に迫るための手立て</td><td colspan="2">◇授業展開の工夫それぞれの立場について整理して考えることができるように、登場人物の挿絵をグループごとに配布、役割演技をする。
 </td><td colspan="2">◇発問の工夫中心発問の前に、「女の子が来なかったら（気付かなかったら）問題ないのでは」といった逆説的な補助発問を行う。そうすることで、どの児童も、公共の場の使い方等を多角的に捉えることができるようにする。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">Ⅴ</td><td>日時</td><td>12 月 15 日（水）</td><td>主題名</td><td>「よりよい学校を目ざして」</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>内容項目</td><td>C よりよい学校生活、集団生活の充実</td></tr>
<tr><td>学級</td><td>６年２組</td><td>教材名</td><td>「六年生の責任って？」</td></tr>
<tr><td>研究主題に迫るための手立て</td><td colspan="2">◇授業展開の工夫導入や終末で他学年や先生方から「六年生の頼りになるところ」のメッセージを提示することで、児童自身の行動の振り返りや児童の学習意欲につなげる。
 
</td><td colspan="2">◇その他自分事として捉え、自分の考えをもつことことができるワークシートの工夫
◇発問の工夫それぞれの意見の通りにした場合の結果について考える。
 
「六年生の責任」とは何か、考えよう。
●あなただったら、誰の意見に賛成ですか。○をつけましょう。
ぼく・山本さん・吉田さん・その他</td></tr>
</table>

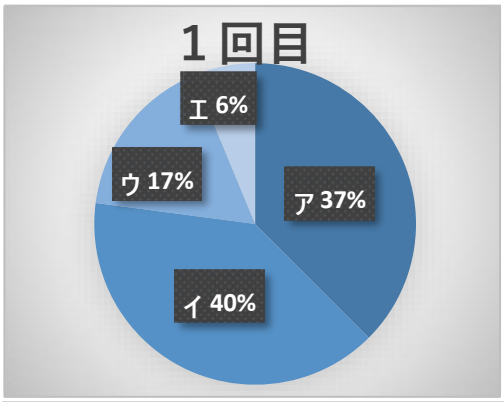
<table>
<tr><td rowspan="3">Ⅵ</td><td>日時</td><td>12 月 22 日（水）</td><td>主題名</td><td>「目標に向かって」</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>内容項目</td><td>A 希望と勇気、努力と強い意志</td></tr>
<tr><td>学級</td><td>４年２組</td><td>教材名</td><td>「より遠くへ」</td></tr>
<tr><td>研究主題に迫るための手立て</td><td colspan="2">◇板書の工夫自分の夢や目標について事前アンケートをとり、導入時に扱うことで教材に浸ることができるようにする。
 </td><td colspan="2">◇交流の工夫トリオで話し合い、自分の考えと比べさせる。交流を活性化させて全体での共有を深めることにつなげていく。
 </td></tr>
</table>

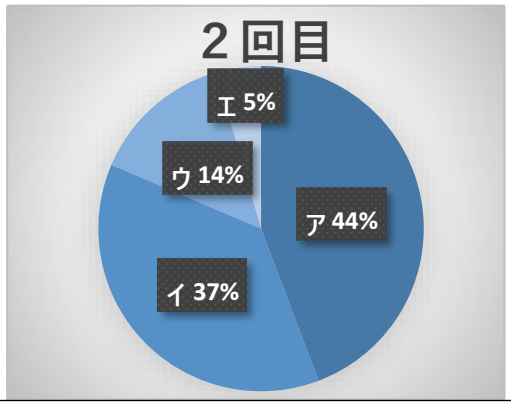
～児童の実態調査の変容～

調査項目①:道徳は好きですか。（1回目　4月　　2回目　12月）

ア:好き　イ:まあまあ好き　ウ:あまり好きではない　エ:好きではない

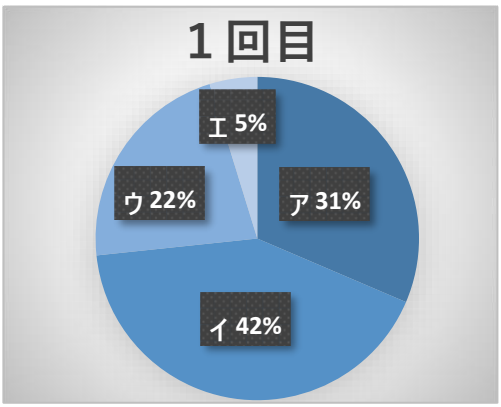
低学年　※　１回目のアンケートは２年生のみ回答

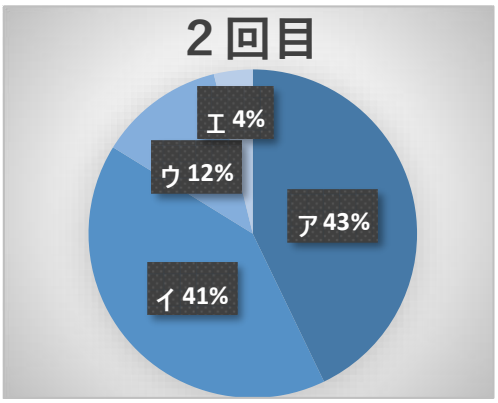




7割以上の児童が道徳を「好き」だと感じている。「お話を読むから」「友達と話し合いをするから」という理由が挙げられており、低学年のうちは自己を深く考えるというより、お話を通して、他者との関わりに関するお手本をたくさん示していくことが大事だと考えられる。

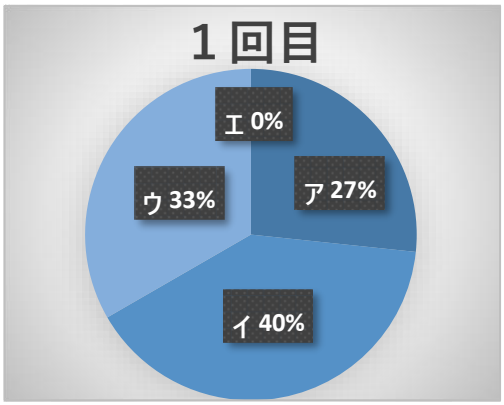
中学年

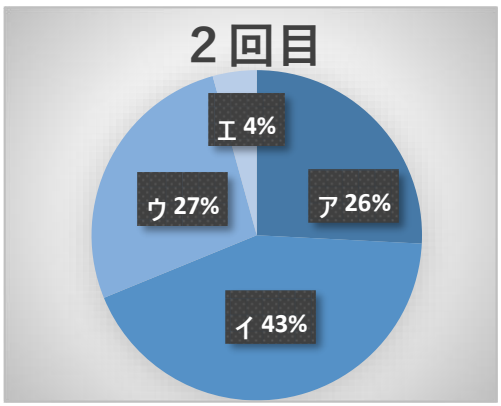




5月の調査よりも12月の調査の結果の方が、「好き」だと答えた児童の割合が73%から84%に大きく上がった。どのクラスでも「登場人物の気持ちを想像するから」「友達の考えを聞くから」という項目が上昇しており、中学年でも物語に入り込みやすい工夫が必要だと考えられる。

高学年





低、中学年と比べ、「好きではない」と答えた児童の割合が大きい。好きではない理由として、教材の内容を理解できなかったり、自分の考えを書くことができなかったりと個人の能力に関することが多く挙げられていた。また、正解がないことを不安だと感じている児童もいることから、教師の発問の仕方やクラスの雰囲気にも大きく影響すると考えられる。

調査項目②:道徳の授業で、自分の考えをもつことができていますか。
ア:できている　イ:まあまあできている　　ウ:あまりできていない　　エ:できていない

	ア	イ	ウ	エ
４月	33.2%	32.8%	10.9%	2.5%
１２月	50.2%	40.5%	8.7%	0.6%

【考察】
・低中学年では、９割以上の児童は自分の考えをもつことができている。全体的に割合が高く、１回目と２回目の結果に差は見られなかった。お話や題材が容易であり、意見をもちやすいと考えられる。
・高学年１回目のアンケートでは、自分の考えをもつことがあまりできていない児童が１～２割いた。２回目のアンケートでは、自分の考えをもつことができる児童が増えた。研究の成果がうかがえる。ワークシートや板書の工夫、友達との意見交流やどんな考えも肯定的に受け止める教師の姿勢等を通して、自分の考えをもつ児童が増えたと考えられる。

調査項目③:今までに道徳の授業で、自分の考えが増えたり、変わったりした事はありますか。
ア:ある　　イ:ない

	ア	イ
４月	74.0%	26.0%
１２月	77.9%	22.1%

◎高学年は記述式　「それはどんなときですか。」多かった回答
・友達の発表を聞いたとき
・自分とは違う友達の意見や、その理由を聞いたとき
・隣りや前後の人、グループで話し合いや意見交換をしたとき
・先生の話を聞いて、確かにそうだなと思ったとき
・自分と友達の考えが全く違ったとき
・お話を聞いたり、登場人物の気持ちを考えたりしたとき
・友達の意見を聞いて、「なるほど。」「たしかにそうだな。」と思ったとき
・意見が分かれて話し合いをしたとき
・ワークシートに考えを書いて、交流したとき

【考察】
多くの児童が、道徳の授業を通して自分の考えが増えたり変わったりした経験をしていることがわかる。高学年の記述意見で多く挙がっているように、まず自分の考えをもち、それから少人数で交流したり全体で発表したりする活動を通して、考えが増えたり変わったりしていることが考えられる。